



令和5（2023）年度「不登校を考える学習会」（第1回）を行いました。

2023.6.10(土)

小郡市人権教育啓発センター

## 演題：「不登校への対応」

### ～親や周囲の大人の対応で子どもは変わる～



今年度、第1回の学習会を開催しました。  
今回の講師に、九州大学名誉教授で本間病院公認心理師の大場信恵さんをお招きしました。

大場さんは、これまで小郡市との関係も深く、1989年より本間病院児童・思春期相談室長として不登校児・親の心理支援をしてこられました。その間、小郡市の子育て支援事業（1歳児半健診、3歳児健診、育児支援教室）において、乳幼児の親子の心理支援に携わり、2005年より九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻 教授としてご教鞭をとられました。2021年からは九州大学名誉教授として、そして

現在は、本間病院・このはなクリニック公認心理師としてご活躍中です。これまで、大場さん先生と関わってこられた保護者の皆さんも数多くご参加下さいました。大場先生と久々に再会した保護者の皆様の、喜びの笑顔が会場のあちこちで見られました。

当日は96名の方にご参加いただき、大集会室の外まであふれるほどの大盛況となりました。学習会の内容については以下に記します。

#### ○ 不登校は まず「見立て」から

はじめに、不登校の定義についてのお話があり、不登校の子どもの最近の増加傾向や子どもの言動の特徴についてお話ししていただきました。そして、不登校の子どもの気持ちの段階と、不登校になった際の子どもの状態について丁寧に説明していただきました。不登校児は「逃避しているのではなく、逃避できない子」、「いうことを聞かない子ではなく、聞きすぎている子」、「学校に行かねばという気持ちが人一倍強い子」というとらえ方に、「これまでの考えを大きく変えるきっかけになった」という感想が参加者アンケートでも多数見られました。

#### ○ 「今 いるところを揺らさない」

不登校になるには、いろいろな背景や原因があります。何とか、学校へ登校できるようにいろいろな支援を考え、子どもと関わろうとする保護者の思いが、結果として、現状にやっとの思いでこらえている子どもの足元を「グラグラ」と揺らしてしまっている、というお話をしていただきました。不登校児は、根がしっかり張っていない木のような状態であり、保護者にしっかり愛されている、自分のことを受け入れられている、と実感させることが、子どもの根を育てる一番の支援です。「何とか今の状況を変えていかねば…」という保護者の支援は、子どもにとって本当の支援にはなっていないということでした。



## ○ 今は まだ「さなぎ」です

不登校の状態を社会へはばたく前の「さなぎ」に例え、援助の在り方として ①安心感を与えること ②支えになること ③一緒に工夫することの必要性について説明していただきました。そして、不登校児の心理状態について、最初から最後まで同じ状態ではなく、心理状態は常に変化していくので、その変化に応じた対応が重要であるということでした。さらに踏み込んで、不登校児の保護者の特徴についてもお話ししていただきました。学力面や進路などに思いが強すぎて子どもを委縮させていることや、親の考えや価値観を押し付けがちになっているという、大場先生ならではの的確なご指摘がありました。



## ○ 「子どもの今が 100点」 「保護者の皆さんも 100点」

学習会の後半では、演習がありました。一番かかわりの深い子どものイラストを描き、その子がかかわりの中で一番言う言葉について参加者それぞれが振り返りました。その言葉に、子どもの気持ちが発信できているかどうかが見えてくるというお話でした。子どもはどんな状態にあっても、「今」が育ちの過程です。「今のあなたで 100点よ」と子どもに伝えることで、どれだけ子どもの安心感が高まるのかについてお話ししていただきました。そして、日々子どもに真剣に向き合っている保護者の皆さんにも「100点です」との声かけがあり、参加者の笑顔が広がりました。

最後に、不登校にならないためには、「手間ひまをしっかりとかけて、心を育てることを大切にしてほしい。」というお話で締めくくられました。

参加者からは、「祖父母の立場でのどのように孫へ関わったらいいいのか」や、「相談施設の利用について教えてほしい」など、今後の支援に関する質問がありました。

「子育てはとても時間がかかるけど、これからも前向きに頑張っていきたい」、「じっくりと子育てをしていこうと思う」、「不登校支援の施設や親の会などのネットワークを今後も大切にしたい」という声をいただきました。

### 参加者アンケートより

- お話がとても分かりやすく参考になりました。また参加したいです。
- もっとお話を聞いてみたいです。
- 子どもは成人しましたが、いろいろありました。まだまだ子育ては続きます。具体的な対応を聞いて良かったです。
- 子どもの生意気な言動に「何でそんな言い方するの！」と追い詰めた言い方をしましたが、それは全く効果がないことがわかりました。これからは親として、ゆったり見守っていきたいと思います。
- 不登校の状態をグラフで表してあるのがとても分かりやすかったです。
- 振り返ると、自分に当てはまることが多くあり反省しました。これからはどうしたらいいかを一生懸命に考えていきたいと思います。
- 今日の資料を大切にしておいて、わからなくなった時には見直したいと思います。
- 親子の関りについて見つめ直すきっかけになりました。安心というか、肩の力がほっと抜けたように思います。親子の良い距離感で成長を見守りたいです。
- 不登校は学校でも大きな課題となっています。不登校になった親だけでなく、すべての保護者、先生たちに聞いていただきたい内容でした。

